

地域の課題解決に向けた民有林との連携
～民有林支援に関する取組紹介（経過報告）～

四国森林管理局 徳島森林管理署
地域林政調整官 森本 吉男
業務グループ係員 谷脇はるか

1 はじめに（課題を取り上げた背景）

地域の森林・林業の再生に向けた取組については、国有林と隣接する民有林との協調施業・販売、林道、作業道の一体的な整備、相互利用など民国連携した取組を一層展開していかなければなりません。

徳島森林管理署では、平成28年度より徳島県三好地区に国有林による市町村への協力・支援等を重点的に取り組む「ケーススタディ地区」を設定し、将来、民有林と国有林との民国連携した取組の実現に向けて取り組んでいますので、その概要と経過について報告します。

2 取組の経過

国有林が地域の森林・林業の再生に向けた取組を展開していくためには、まず①地域における森林・林業に係る課題が何であるのか、その課題解決に向け②地域は国有林（森林管理署）に何を求めているのかを把握することが重要です。

そこで、地域の課題や声を把握する手段と、把握した課題を民有林と一緒に解決していく手法について検討を進めました。

3 実行結果

（1）「とくしま通信」の創刊・配付（ソフト事業）

昨年6月職員手作りの「とくしま通信」（A4版、カラー刷り、毎月発行）を創刊し、毎月1回以上、管内の市町村長、林務担当者、徳島県の出先機関等に直接出向き、とくしま通信を配付し、地域の声を収集・把握する機会として位置付けし、情報収集のツールとしても積極的に活用しています。

（2）ケーススタディ会議の設置（ハード事業）

三好市、徳島県西部総合県民局、三好東部森林組合、三好西部森林組合、（株）山城もくもく（3セク）及び徳島森林管理署から構成される「ケーススタディ会議」を設置し、地域の課題の整理とそれらの解決に向けた

取組を実践しています。

ア 林業後継者不足と林業技術者の育成

昨年春、徳島県の担い手育成対策として開講された「とくしま林業アカデミー」と県立那賀高校に設置された「森林クリエイト科」の学生・生徒に対し、森林環境教育を行うなど支援を行っています。特に森林クリエイト科に対する森林環境教育については、3年間継続した系統的な森林環境教育（各学期毎に1回、計9回/3年間）を行っています。

イ かずら橋架け替え資材（シラクチカズラ）の育成

国指定重要有形民俗文化財である「祖谷の蔓橋」と「奥祖谷二重かずら橋」の架け替え資材の育成が地域の喫緊の課題であることから、新たにシラクチカズラ（育苗）の植栽地を提供するなど、引き続き国有林も積極的に関与し、シラクチカズラの育成を支援しています。

ウ 国有林に隣接する民有林との連携

国有林に隣接する民有林と国有林が、将来、協調施業・販売などの民国連携した取組が実現できるよう、ケーススタディ会議の中に関係者で構成される分科会を設け、事業調整や現地検討会を行っています。



那賀高校森林環境教育



民有林所有者との現地検討

4 考察（まとめ）

徳島森林管理署における民国連携は、ソフト事業としての「とくしま通信」の発行・配付が、地域の声、ニーズの把握について、既にスムーズにその機能、役割を果たしていることから今後とも継続し、地域からの声、ニーズの一つひとつ応えていくことが重要と考えています。

また、ケーススタディ会議を継続していくことで、中長期的に民国連携（路網の一体的整備、相互利用、協調施業・販売など）が実現し、国有林と民有林がより近い関係になるよう進めていきます。